

令和 5 年度大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか事業報告



事業内容：直接支援と間接支援の両輪

直接支援

発達障がいのある方やご家族から直接相談を受けている

間接支援

発達障がいのある方やご家族を支援している支援者をサポート & 発達障がいのある方が暮らしやすい地域づくり

家族支援の充実：ペアレント・メンター事業

関係機関とのネットワーク構築：連絡協議会など

普及・啓発：府民や支援者対象の公開講座・研修

支援体制の構築や人材育成：地域支援力向上事業

アクトおおさかのミッション：

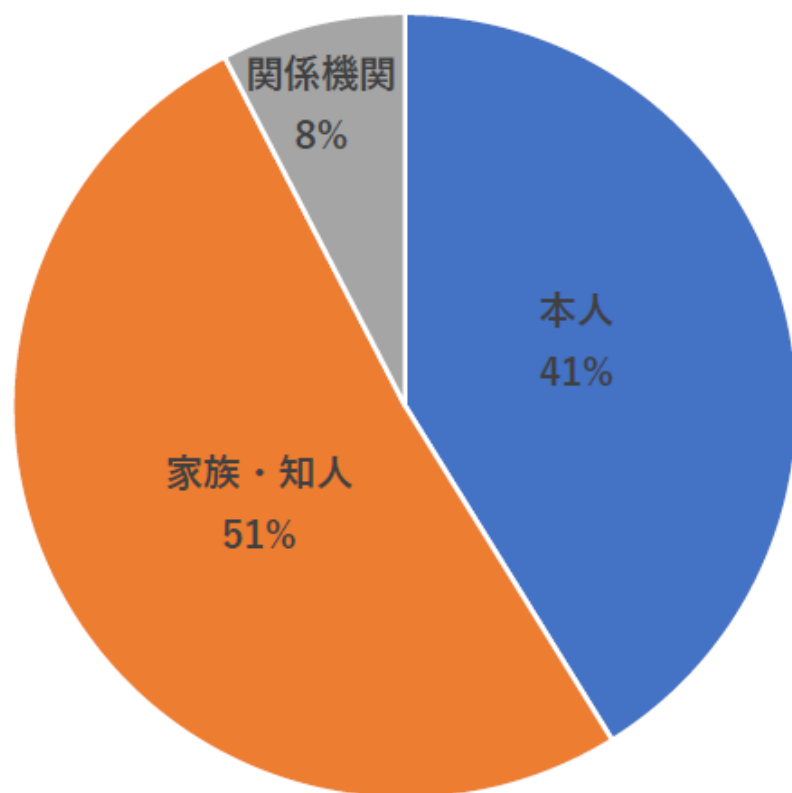
発達障がいのある方々が（大阪府のどこに住んでいても）身近な地域で、生涯にわたり自分らしく豊かに暮らしていける社会を目指して、発達障がいの理解や支援方法の普及とライフステージを通じた一貫した支援体制の構築を行う



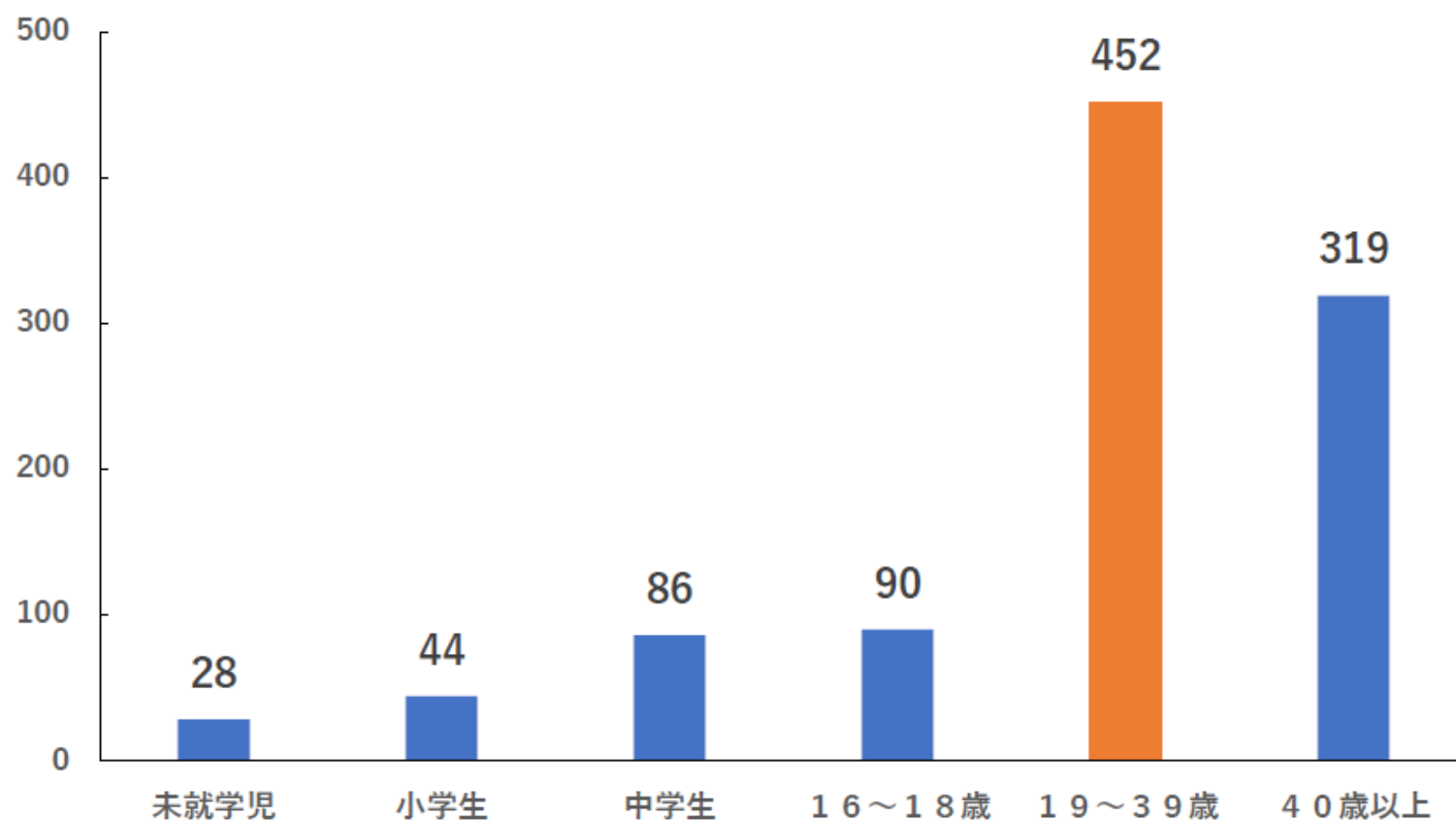
直接支援 (R5年度)

ご家族や知人からの相談が約5割を占め、相談対象者は19～39歳の成人期の方が最も多い。

R5年度 相談依頼者 (実数)



R5年度 相談対象者 年齢別 (実数※不明除く)



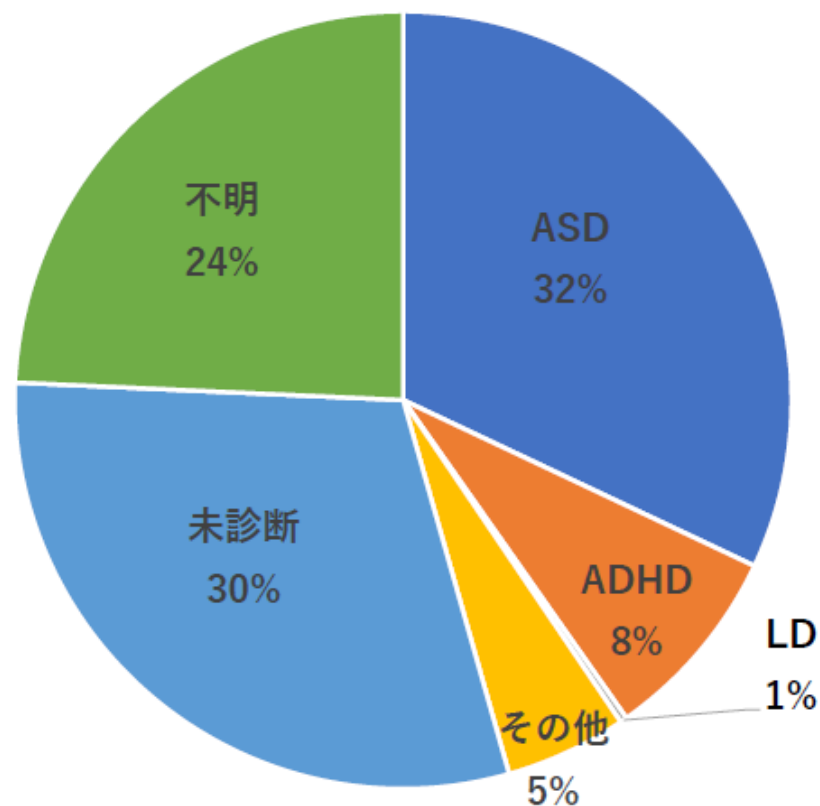


直接支援 (R5年度)

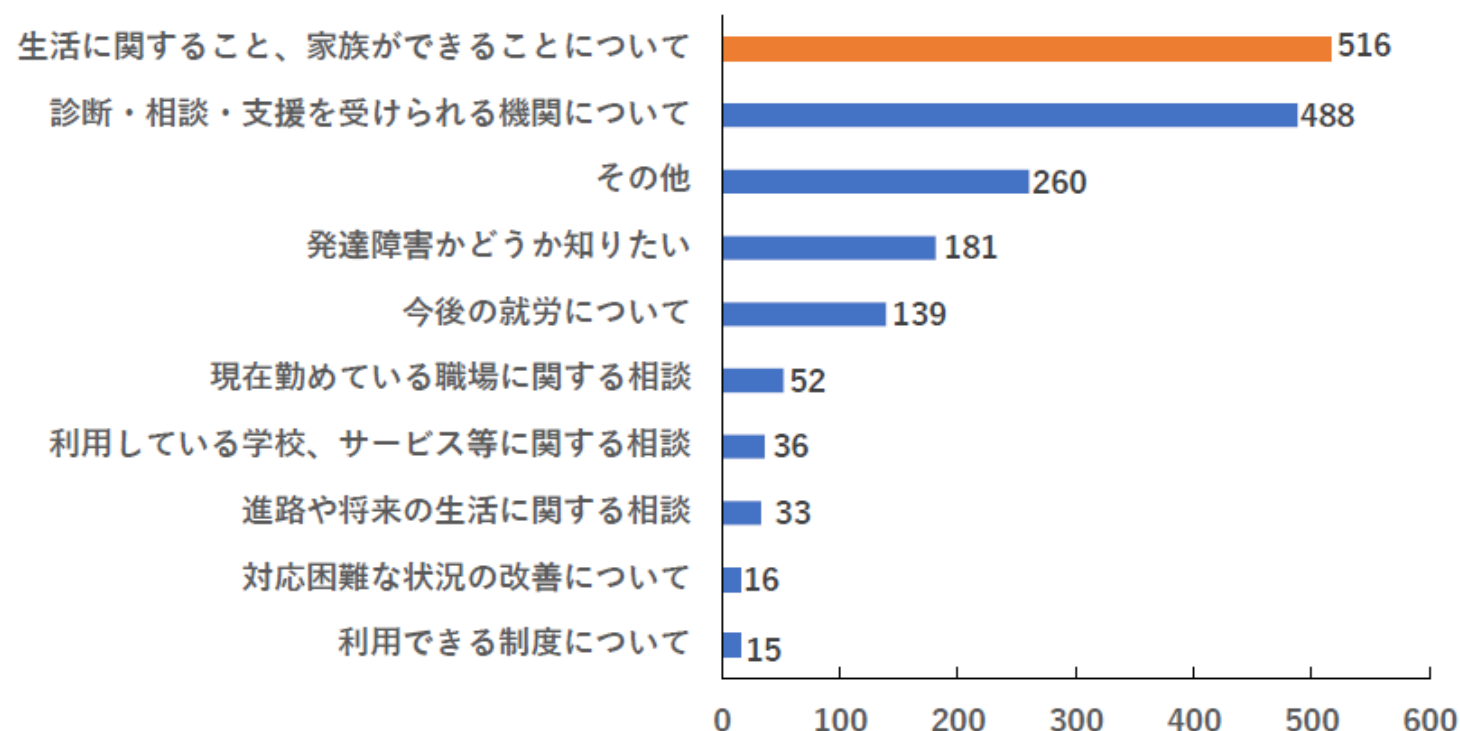
相談対象者種別：診断がある場合は、自閉スペクトラム症の方が最も多い。また、未診断の方も1/3を占める。

相談内容：相談内容は、生活のこと、ご家族ができるサポートについて、診断・相談・支援を受けられる機関の情報提供を希望されることが多い。

R5年度 相談対象者障がい種別（実数）



R5年度 相談内容（複数可、延数）



直接支援の例



① 発達障がいかもしれない・医療機関について知りたい：

発達障がいかもしれないと周囲から言われた／発達障がいかもしれないと自分で思っているのではっきりさせたい／どこに行けば診断を受けられますか？ など

② 就労の悩み：

ミスが多くコミュニケーションがうまく取れない等、今の職場で困っている／仕事が長く続かずこれまで仕事を転々としてきた。今後どうしたらいいか？ など

③ 生活の悩み：

家族としてどの様に本人と関わったらいいか？／生活でどの様な工夫をして障がいと上手に付き合っていけばいいか？／学校や通所先などで困っている／仕事ができず生活に困っている／家事、育児、仕事の両立が難しい／他の人がどうしているのか知りたい など



間接支援（コンサルテーション／普及啓発／機関連携） （R5年度）

□機関コンサルテーション

地域の支援機関を対象に、個別の事例を通じたコンサルテーション等を行う。

□機関連携・普及・啓発

- ・府民向け・支援者向け公開講座の開催（年2回）
- ・講師派遣・その他研修開催（年34回）
- ・大阪府発達障がい者支援センター連絡協議会の開催（年2回）
 - ① 発達障がいのある方の強みをいかして就労のサポートをされている取り組みや、多様性を認め合える社会づくりについて：大阪市地域若者サポートステーション
 - ② 教育と福祉の連携、教育現場の実際：株式会社なないろ
- ・大阪府発達障害団体ネットワークへの参加（年3回）



間接支援（コンサルテーション／普及啓発／機関連携） （R5年度）

□大阪府ペアレントサポート事業（**ペアレント・メンター事業**）

大阪府ペアレント・メンター事業事務局として、ペアレント・メンターの養成研修等の実施および派遣調整を行い、メンター活動の推進を図ることで、地域における発達障がい児者のご家族への支援体制の充実を目指す（63名の登録者数：令和6年6月時点）。

- 26件の依頼
- 70%の依頼元がリピート活用
- 41市町村中26市町村が活用（63%の普及率）※大阪市と堺市を除く

□発達障がい者地域支援力向上事業

発達障がい者地域支援マネージャーが地域自立支援協議会等を通じて、地域支援体制の機能強化を支援する。

- 茨木市、交野市、守口市、門真市、枚方市、羽曳野市、阪南市が活用
- 地域課題の整理、児童と成人の連携、教育と福祉の連携、サポートファイルの作成、ライフステージを通じた支援体制の構築などに対する取り組みを実施